

2017年「IEC 1906賞」受賞

2017年10月23日に先進技術研究所の大西 輝夫は、平成29年度工業標準化事業表彰式において、「IEC 1906賞」を受賞しました。「IEC 1906賞」は、国際電気標準会議（IEC：International Electrotechnical Commission）*1専門業務における最近の業績を対象としたものであり、電気・電子技術の標準化および関連活動において優れた功績を有する個人にIECより授与されるものです。

大西は、IEC TC（Technical Committee）106において、携帯型無線通信機器の人体ばく露に関する評価法の規格策定に貢献してきました。IEC TC 106は、米国の電気電子学会（IEEE：Institute of Electrical and Electronics Engineers）および欧州電気標準化委員会（CENELEC：European Committee for Electrotechnical Standardization）と協調し、人体ばく露に関する電磁界測定装置および測定方法の標準化を行っている専門委員会です。その中で大西

は、携帯型無線通信機器に関する比吸収率（SAR：Specific Absorption Rate）*2測定法の策定に日本代表として継続的かつ積極的に参加し、国内意見の取りまとめや、技術的な検討結果を反映させた国際規格（IEC 62209-1 Ed. 2.0*3、62209-2 Ed. 1.0*4、PAS 63083 Ed. 1.0*5）の策定に、大いに貢献しました。

また、比較的新しい技術であるワイヤレス充電（WPT：Wireless Power Transfer）の評価法検討にもIEC TC106 WG（Working Group）9のコンビナー*6として主導的に取り組んできました。IEC TC106 WG9は、WPTの人体ばく露に関する評価法の検討を行うために2015年に設置されたワーキンググループです。さらに、WPTに関係のあるITU-R（International Telecommunication Union - Radiocommunication sector）や他のTCなどリエゾン*7を確立しながら、WPTのばく露評価法に関する技術報告書（TR：Technical Reports）を主体的に取りまとめました。これらの貢献が評価され、今後も引き続きIECへの貢献が期待されることから、今回の受賞となりました。



- *1 国際電気標準会議（IEC）：情報技術分野の標準化を行う組織であり、電気および電気通信の国際規格を作成する。
- *2 比吸収率（SAR）：生体組織に吸収される電波のエネルギー量。
- *3 IEC 62209-1 Ed. 2.0：人体側頭部使用時の携帯無線端末のSAR測定方法。
- *4 62209-2 Ed. 1.0：人体側頭部以外で使用する携帯無線端末などのSAR測定方法。
- *5 PAS 63083 Ed. 1.0：LTE端末に関するSAR測定手順。
- *6 コンビナー：ワーキンググループの取りまとめ役。
- *7 リエゾン：別の標準化組織間、または1つの標準化組織の別グループ間で、相互に連携して整合のとれた仕様を策定するために情報を交換すること。

